

○普及に移す技術

[タイトル] 緑肥作物すき込み後のダイズにおけるタネバエの発生と薬剤の防除効果

[要約] レンゲやヘアリーベッチ上にはタネバエ成虫が多く生息し、これらの作物を緑肥としてすき込んだ後のダイズ栽培において幼虫の加害による出芽被害が多発する。タネバエ幼虫に対してクルーザーFS30の種子塗沫処理やダイアジノンを含む粒剤（パジノン粒剤6、ダイアジノン粒剤）の土壌混和処理の防除効果が高い。

[キーワード] タネバエ、レンゲ、ヘアリーベッチ、ダイズ、防除

[担当場所・課] 農業技術センター・農業試験場・病理昆虫課

[連絡先] 電話 076-429-5249

[背景・ねらい]

近年、地力増強のため、レンゲやヘアリーベッチを緑肥としてすき込んだ後にダイズを栽培する体系が導入されている。タネバエは有機物を施したほ場を好むことから、こうした栽培体系によりタネバエ幼虫の加害によるダイズの出芽被害が懸念される。このため、レンゲやヘアリーベッチとダイズとの栽培体系におけるタネバエの発生量や出芽被害の実態を解明するとともに、タネバエ幼虫に対する薬剤の防除効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 レンゲやヘアリーベッチ上にはタネバエ成虫が多く生息している（図1）。
- 2 レンゲやヘアリーベッチを緑肥としてすき込んだ後のダイズ栽培において、タネバエ幼虫の加害によるダイズの出芽被害が多発する（図2）。
- 3 ダイズにおけるタネバエ幼虫に対してクルーザーFS30の種子塗沫処理やダイアジノンを含む粒剤（パジノン粒剤6、ダイアジノン粒剤）の土壌混和処理の防除効果が高い（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 緑肥や堆肥などの有機物を施したダイズ栽培における防除対策に活用できる。
- 2 クルーザーFS30は種子に塗沫処理するため、作業が省力的である。
- 3 タネバエは有機物を施したほ場や土壌が湿った状態を好むことから、被害はほ場間差、年次間差が大きい。

[具体的データ]

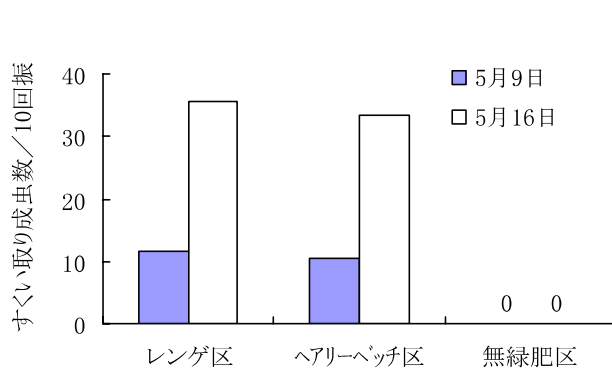


図1 各緑肥作物の栽培区におけるタネバエ成虫のすくい取り虫数
2007年、2反復。無緑肥区はイネ科雑草がまばらに生えた状態。

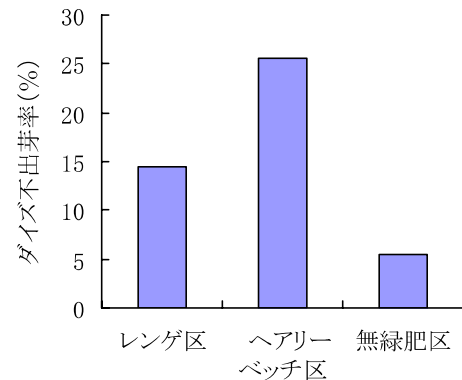


図2 各緑肥すき込み後のダイズ栽培におけるタネバエ幼虫による出芽被害
2006年5月24日に緑肥をすき込み、同日に播種し、播種13日後に1.8m間を4カ所(2カ所/区×2区)調査。

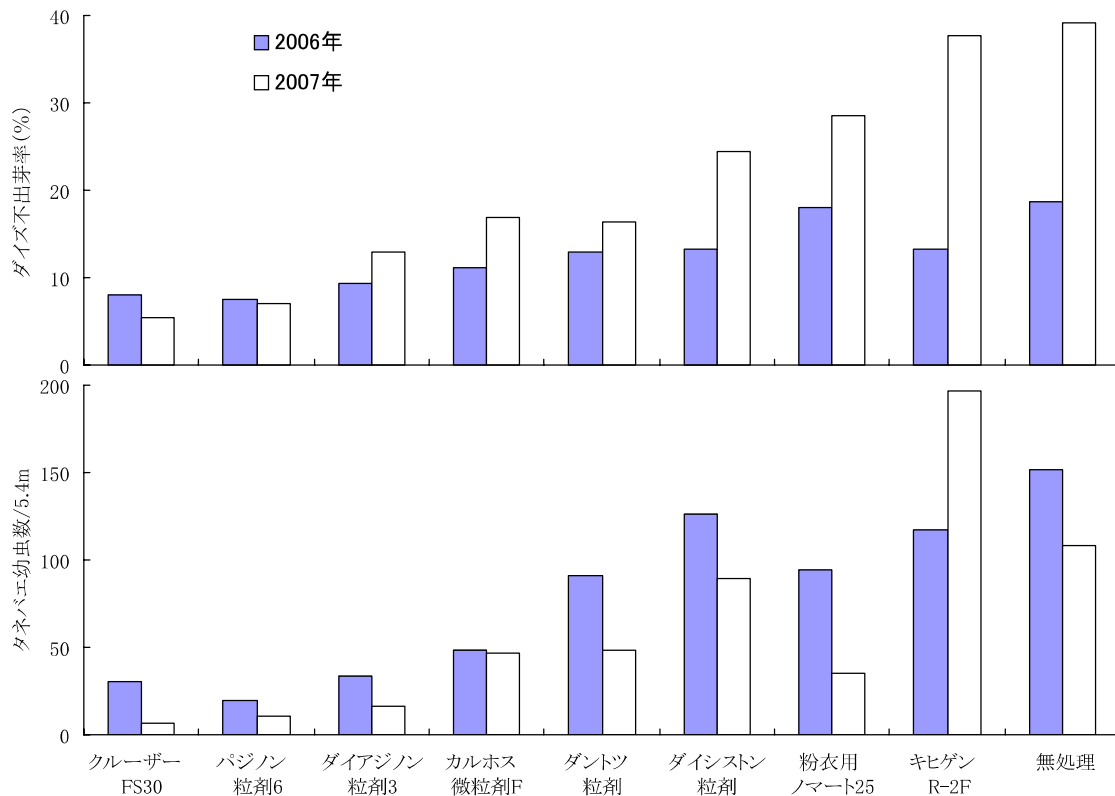


図3 各種薬剤処理におけるタネバエ幼虫によるダイズの出芽被害
タネバエ成虫を誘引するため魚粕粉末等を多施用し、甚発生条件下の試験。品種:エンレイ。2006年5月17日、2007年5月18日に75粒(25粒×3条、株間7.5cm、条間80cm)を手播きし。播種12日後に調査。3反復。ダントツ粒剤およびダイシストン粒剤はタネバエに対して農薬登録なし。

[その他]

研究課題名：緑肥作物の導入に伴うダイズ初期害虫の発生実態の解明と防除法の確立
予算区分：県単
研究期間：2007年度（2006～2008年度）
研究担当者：吉島利則、青木由美